



〒617-0002 京都府向日市寺戸町山縄手4-2 電話075-201-9291

代表 高島 由美

メール: 1 fbkyoto@gmail.com

web: <https://www.foodbankkyoto.com/>

facebook: <https://www.facebook.com/1foodbankkyoto/>

## 奉仕の素晴らしさ

代表 高島 由美

活動開始から2年半が経過し、ようやく広報誌創刊号を発行することができました。その間、少しずつ増えていった支援者の方々の思いやりを、必要とされているところへお届けすることができたことに、大変喜びを感じています。

「情けは人の為ならず」との言葉がありますが、人を思う無私の行為には、ひとときわ輝きを放つ美しさがあります。

支援品を持ち込んでくださる方の多くは、少し気恥しそうにされながらも、その表情には人の役に立つことの充実感がうかがえ、目には見えない一拭で、心を磨いておられるように感じます。奉仕活動の素晴らしさはまさにそこにあり、利他の行為が自らの人間形成の肥やしになる仕組みになっているものと考えています。

私も同様に、奉仕活動に携わる機会を得られたこと、そして一人一人の方と共鳴共感しながら、その繋がりが広がりつつあることに、深い感謝の思いが込み上げてきます。

この先、更に広がりをもせ利他共に向上できる社会の到来を願っています。



## 藤田寛氏を迎え

事務局

12月4日、山谷農場の藤田寛氏が、フードバンク京都の事務所に来られました。

藤田氏は、私たちがフードバンクを立ち上げたときから、途切れることなくお米を支援してくださっていて、現在は毎月30キロものお米を送ってくださっています。

藤田氏は、にこやかな笑顔、明るい声で、いつもその場が熱気を帯びてきます。こちらは、高島代表、事務局、田中が応対して、約3時間にわたって情報交換をしたり、藤田氏の経験談を聞かせていただいたりしました。特に、私たちの今後の進め方について、他団体の様子を示しながら、具体的な方向性、あり方を示唆してくださいました。

いつもながら、得るところの多いお話で、時間があっという間に過ぎていきました。この日は、続いて、大阪の「シンママ応援団」に向かわれました。

ここは18歳までの子を養育する母子家庭等で、DV解決の必要な課題を抱える母と子が入所する児童福祉施設です。平成28年4月からは、日本のひとり親家庭の貧困と、子どもの進学率の向上を図り、貧困の連鎖を断ち切るための支援として、ひとり親サポートセンター「こもれび」を設けました。

ひとり親家庭は少しずつですが増加傾向であり、その中で母子家庭の母の就業率は80%を超えながらも、所得は平均約181万円です。地域のひとり親家庭の方も課題がありつつも、時間がなく相談窓口に行けず、支援を求められずにおられます。

「フードバンク京都」さんから平成27年夏ごろより食品提供を受け、初めは入所者へのみ配布していましたが、こもれびを設け、地域のひとり親家庭の方にも提供を始めました。それを機に、ここに足を運んでみようと思われ方が増え、平成28年4月当初11世帯の登録であった地域のひとり親世帯が平成29年11月には35世帯にまで増えました。

来所時に交わす、何気ない会話からいろんな情報提供ができるような関係ができ、地域のひとり親家庭がもつ課題や困りごとを気軽に相談する場として活用していただけるようになりました。

いただく食材は他に、中高生の子どもを対象としたタノシメシ（中高生の子ども食堂）で活用させて頂いており、温かくおいしい食事を一緒に囲む団らんの機会を職員やボランティアの学生と楽しんでいます。

地域にはまだまだ支援があつたらと思いつつも目の前の生活に追われているひとり親家庭が多くいらっしゃると思います。私たちの支援や取り組みを活用していただき、健康的に自分らしく生活していただけるよう、これからも「フードバンク京都」さんのご理解とご協力を頂きながら、いろんな方法を考え続けていきたいと思っています。



## 同志社国際高校で

### フードドライブ実施

同志社国際高校生徒会

同志社国際高校の生徒会です！

私たちがフードバンクの存在を知ってから一年弱というところで、同志社国際でのフードドライブを実施することができました。文化祭で宣伝をしたり、高校一年生の授業で発表をさせていただいたり、事前から生徒全体にフードバンクの存在を知ってもらいました。そして9月末の月曜日から金曜日までの一週間のお昼休み、私たちが待っている指定の場所に食品を届けにきてもらうというものでした。

このような活動を実施したのは初めてで予想以上にたくさんの方々に協力いただいて、驚きと喜びを隠しきれませんでした。しっかりと意味をわかっていた上で参加してほしいと思っていました。高校生の心に訴えかけようとしてもまだしっくりきていない人ももちろんたくさんいると思います。私も今回は開催している側だから頑張れたということで、たとえば他の人たちに新しいボランティアの取り組みを勧められても、私が動き出せるとは正直言い切れません。しかしそれは悪いことではなく、その人のタイミングがきたときに、みなさんにフードバンクのことを知っていただけたらと思っています。

我が家には小学生、中学生そして高校生の息子がおります。実は、我が家の隣に昭和を感じさせるような二階建てのアパートがあります。そのアパートに住む A 君（当時 12 歳）。私が仕事から帰って来るといつも階段に座っていました。彼には知的障害があり、お母さんは他の兄弟を連れて再婚。A 君は仕事のないお父さんと 2 人で暮らしていました。息子達を見た時、この違いはどこから来るのだろうと思いました。同じように愛されて生まれ、同じ地域、同じ学校の同じクラス…強い悲しさを感じました。「全ての子供達が幸せでお腹いっぱいご飯を食べる事が出来るようになって欲しい」と心から思うようになっていました。

そんな時、主人から「フードバンク」の存在を聞き「フードバンク京都」に巡り合いました。私も少しずつでも参加させて欲しいと思ったのでした。「誰でも支え手になることが出来る」その言葉が胸に響きました。会ったことのない子供達を思って荷造りするだけで、とても温かい気持ちになります。私の寄付はとても小さい物ですが、それでも誰かのために出来ることがあると思うだけで幸せを感じています。子供達に私が力をもらっている…そんな風を感じるのです。

小さな力が集まって大きな力となり、A 君のように寂しい思いをする子供が少しでも無くなるように、そしてより多くの子供達が「楽しいなあ」「嬉しいなあ」と言う思いに出会って欲しいと願い、これからもフードバンクの活動に参加させて頂きたいと思っています。



## フードバンクへの思い

スタッフ 石川 敏郎

滋賀県の石川です。滋賀県？「フードバンク京都（FBK）」なのにと疑問を持たれる方もあるかと思えます。それは以下のような事情なのです。

フードバンク京都は 2 年前の 5 月に発足しました。が、私は、すでに活動していた「フードバンク滋賀」にいたのですが、そのとき、高島代表が京都でフードバンクを立ち上げる準備のために、そのフードバンク滋賀に参加していたのです。その縁で、京都での立ち上げのお手伝いをして、そのまま FBK のスタッフとなっているわけです。

フードバンク活動自体は、読書していた時にたまたま近所に滋賀で活動しているのを知ってから連絡を取って参加しています。活動に参加しているきっかけは、「恵まれない人のために」というより、今の日本に十分食べるものが手に入らない人がいることが理解出来なかったから、むしろ興味を持ったのですが、その一方で年間 600 万トン以上食品が廃棄されていることが納得できなくて、何とか出来ないかという「もったいない」という気持ちからです。まだ食べられるものを捨てることに対する罪悪感とでもいうのでしょうか？どうせならそれを本当に必要としている人に届けたいというだけです。まあ結果的に食べ物を捨てずに済めば目的は「達成」と考えています。

とはいえ、現在シングルマザーで子供に十分食べさせられない母子家庭を始め、いわゆる「貧困家庭」が増えています。その対策の一つとして「子供食堂活動」があちこちで開かれているのも事実で、最近それがニュースとして取り上げられているのでかなり知れわたっています。目的はそれぞれ違っても、社会の関心が高まって我々の活動に対し支援のお声がけをいただく方々や団体、企業が増えていることは本当に嬉しい話で、自分の活動への参画意欲も高まっています。世の中捨てたもんじゃない！ですよ、みなさん。

## 活動実績 (2017年4月～12月)

(1) 定期的な支援活動	
① 母子施設	3カ所/2,933.3 kg
② 児童養護施設	2カ所/877.5 kg
③ 子ども食堂	7カ所/1,155.5 kg
④ その他の団体等	2カ所/734.9 kg
(2) 不定期な支援活動	
社会福祉協議会、福祉施設、法サテライト等	1,439.4 kg
(3) フードドライブ	10回
(4) 緊急支援	
行政・社協・福祉施設等からの要請	1,259.7 kg
(4) 農園による生産活動	玉ねぎ、ほうれん草、にんじん、じゃがいも、かぼちゃ、青ネギ、エンドウ豆、大豆、しし唐、ピーマン、枝豆、茄子、トマト、大根、にんにく、サツマイモ、キウイ、サラダ菜、インゲン豆、モロヘイヤ、いちご、とうもろこし、きゅうり、らっきょ、ピーナッツ、しょうが、里芋、オクラ など

ご提供いただいている皆さま (五十音順、敬称略)

明石農場 (不定期・野菜)

うえだ農園 (不定期・野菜)

大手スーパー (月4回・パンと野菜類)

風の里タマナカ農場 (不定期・野菜)

京都マラソン (年1回・飲料、菓子、果物)

京都レディースソフトテニス連盟 (年1回フードドライブによるドライ食品)

国際ソロブチミスト京都 (年数回フードドライブによるドライ食品)

ごはんばん工房つぶつぶ (不定期・パン)

ビバスポーツアカデミー南草津 (年2回フードドライブによるドライ食品)

コンディトライ マウジー (不定期・ケーキ類)

矢野食品 (月2回・こんにゃく)

山谷農場 (毎月・30キロのお米)

その他、多くの個人さまからもご提供いただいておりますが、個人情報保護のため伏せさせていただきます。

### 沿革

2015年5月 生活困窮者を対象とする食糧支援団体の立ち上げ。4人でスタート

6月～母子施設・子ども食堂・行政や社協等との連携・児童養護施設

2016年4月 第1回フードドライブ実施・フードバンク農園開始

2017年3月 第1回スタッフミーティング (7人)

5月 事務所を京都市から京都府向日市に移転

6月 京都市助成制度への申請・受理

8月 初めてパンフレット・チラシ作成